

事業計画

平成 23 年度

社会福祉法人原町成年寮

平成 23 年度社会福祉法人原町成年寮 事業計画

一 未曾有の国難の中での社会福祉法人の役割と原町成年寮

第二次世界大戦以降最大の被災者を出した「3.11 東日本大震災」に直面し、国中が戦後の技術立国日本の歩みを自問自答しながら、復興に向けて歩み出す時に、社会福祉法人も以前より増してより公共性を意識した取組が求められてくる時代になることが予想される。地域住民の方からみての道理性のある事業展開・地域社会からのいろいろな要請に対していかに応えられるか、問われてくることになる。

障害者福祉施策は、国連の障害者権利条約に基づき国内法を改正していく日程が上がっている。今年度中に基本法である「障害者基本法」の抜本的な改正、それに基づく「障害者総合福祉法」の骨格が示されることになっている。一方で自立支援法の経過期間の最終年を迎え、厚労省の障害福祉課自体が、「何十年に一度の大きな動きの年」と位置づけている。権利条約の理念に基づくということは、現状の地域福祉の流れがさらに強まり、障害当事者自身が住まい方を権利として制度化する方向が予想される。原町成年寮が長年取り組んできたキーワードは地域・就労なので、方向性は変わらないが、グループホーム・ケアホーム以外の住まい方を利用者が選択した時、応えていかなければならない。しかし、この国難の中で、快晴の日程が延びることも充分予想される。

いわゆる、自立支援法のつなぎ法案が成立し、国制度としてこの 10 月からグループホーム・ケアホーム利用者で非課税世帯にたいして最高 1 万円の家賃補助制度が開始される予定となったことは、大きな前進である。

原町成年寮は、昨年度、居住支援ニーズの高まりを受け、引き続きグループホーム・ケアホームのユニット開設や日中活動の場の確保に努め、今年度は葛飾区立石図書館内の「リサイクル・喫茶事業」を葛飾区より委託されることとなった。このために人材確保に努め、4 月現在で、法人関係職員等も 230 名となる。

私たちの仕事は、原町成年寮を利用している利用者一人一人がより豊かな人生を歩めるように支援する事であり、公的機関としての地域への貢献である。障害の程度も発達障害の程度・人生経験や特性に合った支援の方法が求められる。

法人の事業を利用する方が増えることは、原町成年寮に対する期待の表れと同時に、より社会的責任を意識した法人運営と規模にあった組織づくりが求められてくることでもある。

二 基本理念

- ① 就労・社会生活能力の向上のための支援
- ② 豊かな人生を送ることの支援
- ③ 地域社会への貢献

三 今年度の重点施策

- ① 地域の重要な社会資源としての社会福祉法人として、者会公演を意識した法人・事業運営。
- ② 職員の支援力の向上・人材育成のための階層別職員研修の実施。
- ③ 安心・安全な生活支援・就労支援の体制作りと実践。
- ④ 新規事業の着実な実践と安定化。
- ⑤ 第5次プロジェクトにおける次世代の積極的な登用。

四 職員への子育て支援策の充実についての取組の模索

小学校就学の始期に達するまでの子を養育する職員の勤務条件についての検討

法令の改正により、平成22年度から、3歳までの子を養育する職員に対して、短時間勤務・超過勤務の制限に関する制度を実施したところだが、3歳から小学校就学の始期に達するまでの子を養育する職員に対しても、法人の努力義務として、超過勤務の制限・短時間勤務制度・始業時刻変更等の措置が求められることとなった。経験のある人材確保のために、深夜業の制限期間の延長制度も含めて、どのような形ならば事業運営との協調が可能かどうか、各事業所で検討していく。

五 事業計画

① 重点目標に沿った事業の実施

○ 社会貢献を意識した法人・事業運営

- ア 公的事業のティとつとして節制・省エネルギーに努める。
- イ 地域との防災協定により、求められた場合には、積極的に、物的・人的支援を行う。
- ウ 災害に対して対応できるよう、備品の準備や備蓄品を確保し、必要に応じて事務局に対策本部を設置し、体制を整える。

○ 階層別職員研修

ア 新任研修

社会人としてのマナーを学ぶ他、多様化するニーズに対応するために、新人の人材育成を行う。法人の基本理念と支援(処遇)の基本姿勢を研修の中心に据え、年間を通じての学習会と、個別指導担当を指名した上での OJT(On-the-Job Training)を実施する。自ら課題に気づき、解決する意欲・スキルを持った人材を育てる。
また、必要な事業所に新任職員サポーター制度を敷く。

イ フォローアップ研修

採用 3 年目の常勤職員対象に実施。今年度は、各事業の報告・ケース討議を充実させていく。

ウ 主任等自己啓発研修

サービス管理責任者・主任・チーム長を対象として実施。
最長 1 週間の外部・内部研修を認める外、福祉人材センターの指導的職員研修参加を義務付け。

○ 安心・安全な生活支援・就労支援の取組

- ア 事故や「ヒヤリ」「ハット」する事態の防止・解消のためのリスクマネジメント体制の強化のために、各指導会等において日常的に議案とし、リスクマネジメントに対する職員の共通理解を深める。
- イ 各事業において避難訓練等を着実にを行い、防災意識の助長と防災体制の構築を図る。

○ 葛飾区からの新規委託事業(立石図書館リサイクル・喫茶事業)の安定化

- ア 生活介護事業(アンジュ)の従たる事業所として実施するが、受託法人として事業の安定化が求められることから、法人全体で支える意識を持つ。
- イ 要請がある場合には、他事業所から支援を行う体制をとる。

○ 法人の中長期計画の策定(第 5 次プロジェクト)

- ア 増加する日中活動利用者のための活動場所の確保。

イ 通勤寮の民間移譲・宿泊型自立訓練事業への移行を踏まえた、原町成年寮の利用者生活支援システムの再構築の展望。

ウ 就労支援センター設置の検討。

エ 次世代職員の柔軟な発想に基づく新規事業提案の受入。

② 人権に配慮した支援

○ すべての事業活動の柱となるものであり、基本姿勢である。

○ 障害者権利条約や障害者基本法・総合福祉法の動向についての認識を深めるため、外部研修へ派遣するほか、必要に応じて内部研修を実施する。

③ 各事業の主な取り組み(各事業計画参照)

○ 共同生活介護・援助事業所かつしかセンター(グループホーム)

ア 居住の基本として、安全で快適な生活空間を整える。

イ 利用者の高齢化に伴い宿直寮を一つ増やし、4チーム体制を実現する。

ウ 新規受入は通勤寮を基軸として、できるだけ社会の必要に応えつつ、事業拡大を図る。

○ 地域生活援助センター(かつしかセンターケアホーム・地区センター)

ア 自閉症の行動障害に対応するべく、ケアホームユニット「なぎさ」を開設する。

イ 各宿直寮を中心に4チーム体制をとり、主任体制を強化する。

ウ 個別支援計画を中心に据え、利用者本位の支援を実践できるように、組織としての支援を充実させる。

○ 葛飾通勤寮(旧法知的通勤寮)

ア 利用者の経済的な基盤を確立するために、分担して障害基礎年金の申請を行う。

イ 職員の業務処理能力向上のための必要な支援を実施。

ウ 特別支援学校や児童養護施設との日常的な連携体制の構築。

○ 奥戸福祉館(多機能型・生活介護・就労継続B型事業所)

ア 定員が増えたこともあり、位あつまで以上に利用者に対してきめ細やかな支援を行う。

イ 平成24年い開設予定の給食センターの立ちあげに力を注ぐ。

ウ 移動販売社での販売を軌道にのせる。

○ 生活介護事業所(アンジュ)

ア 利用者の高齢化に伴い、活動場所の安全対策を充実させる。

イ 立石図書館内でのリサイクル・喫茶事業の安定を図る。

○ 就労移行支援事業所・職場適応援助事業

ア 利用者ニーズや障害特性に応じた支援を行うために、三障害(知的・発達・精神)を問わず情報収集を行い、日常業務に反映させていく。

イ グループホーム・ハローワーク・就労支援センター等の関係機関や企業との連携を図り、安定して就職ができる環境づくりを行っていく。

ウ 年度就職者目標 20 名をめざす。

○ 移動支援・行動援護・居宅介護事業所(ドロップ)

ア 移動支援・行動援護・居宅介護のそれぞれの機能を活かした支援を行う。

イ 個々のニーズに合わせた余暇支援を提供するとともに、募集型の余暇プログラムも企画し、多くの利用者の余暇の充実を図る。

ウ 法人職員をヘルパー・行動援護支援者として育成し、積極的に人材活用する。

④ 法人全体行事

○ 階層別研修 通年

○ 歓送迎会

○ 全体忘年会については、葛飾区内で開催することが物理的に不可能となったことから、今後は 5 年ごとの節目の年に、区外のホテル等で開催する事とし、今年度は各事業ごとに総会に替える行事をおこなう。

五 日常の法人運営

① 事務局会議

法人組織規定により理事長の委嘱を受けて、寮長が主催する事務局を設け、理事会評議員会の議決に基づき日常の法人運営にあたる。また、防災上の緊急時には対策本部として機能する。

② 事業会議(施設長会議)

施設長等管理責任者会議。各事業の進捗状況の報告及び連絡調整をおこなう。

③ 事業点検・改善委員会

現場からの声を事業及び法人運営に反映させるための機関。

各事業所から委員を出し、年数回開催し、法人に対し具体的な提案をおこなう。

④ 事務担当者会議

各事業出納職員で構成し、庶務・事務処理上の情報交換や課題の整理、及び提案をおこなう。